

リーブス Leaves vol.14

(はっぱたち)

～みんなちがってみんないい～

平成 25 年 月 日

発行 リーブス (通級保護者の会) 編集部

担当 川島 (緑野小) 永田 (第五小)

こんにちは！リーブスです。冬が近付いてきましたね。今年は秋が短く、夏の暑さが嘘のように冷え込んでます。さて、今回のリーブスでは、「ちょうどよさ」について考えてみたいと思います。ちょうどいい感覚って、いつ身につくのでしょうか？経験によって身についていく多くの子ども達がいる一方で、コミュニケーションや五感に関わるちょうどよさの基準が周りと違い、独自のこだわりからトラブルになるかと思えば、こだわらなさすぎによって問題になってしまう子もいます。人それぞれ感覚が違うのは当たり前ですが、そこまで？的あるあるをご紹介します。

時間

<遅すぎ>

いっただきま〜す♪

40分後…

ん、何？

悪気はなく、流れる時間の感覚が単にゆっくりなのです

どうして40分かけてパン1枚たべられないの？

<早すぎ>

もう7:30だ！
うわー、間に合わない！！

うわー！
いってきまーす！！

一度出発時間を決めちゃうとこだわっちゃって変えられないのね〜
早すぎだよ…

感覚I

<鈍感>

おやつ食べたら宿題ね〜

はい

よし、やるぞ！

おっ！！

<過敏>

パジャマ、ここに置いとくね〜

うわー！！
僕の服をテーブルに置くな〜！！

感覚II

<気にしない>

ごちそうさま♪

いってきまーす

もうちょっと気にしようか…

<気にしすぎ>

ケチャップが1滴ついただけで…

うわー！！
着替える〜！！
ぎゃー！！

味覚

学校のカレーって、辛くて食べられないよ

そんなに辛くないはず

このチャーハン辛いよ！
コショウ入れたでしょ！

ほんの1振りなのにな〜

どれも**両極端**じゃのう…

ちょうどよくなるかのう…

ふたば教授

左のマンガで紹介したように、特別支援を受けている子ども達の中には極端な感覚を持つ子達があります。五感が未発達の子、研ぎすまされている子。どちらも極端であればあるほど、日常で本人や周りの人が困る場面が出て来ます。

例えば、触覚の一部の皮膚感覚。これが未発達で気候に合った服装を選べない子があります。寒い日に、T シャツで飛び出し、風邪をひいてしまう。かと思えば、夏にT シャツの上にダウンベストを羽織って出かけ、あせもを作って帰ってきてしまう。どんなに寒くても暑くても、目の前の友達との楽しい時間が最優先され、ちょうどよく過ごす調整や工夫は後回し。人目にも気にしません。困りますね。

また逆に皮膚感覚が研ぎすまされすぎて、長袖の服の触感に耐えられず、寒い方がまだと冬中半袖で過ごしてしまう子もいます。親は上着を着せようとしませんが、子どもは自分の不快さを説明する言葉や知恵を持っていないため、お互いに理解できないこともあります。これも困りますね。

そんな子ども一人一人を観察し、どんな特性をもっているか、どんな事に困っているかを家庭とは違った目線で子どもを見てくださる先生方も心強い味方です。

「おたくのお子さんは、触覚に独自の鋭さをもっているのかもしれませんがね」そんな言葉から子どもへの理解が深まれば、どんな触感の上着なら着られるのか、親子で探しに行く事もできます。家庭や学校で工夫を積み、いろんな触感に慣れることは、子どもの許容範囲を広げていくこととなります。周りの大人がそんな事例を知らなければ、本人の極端な振り幅の中、親もその子独自の感覚に気づかず、一般的なちょうどよさを押し付けてしまう。

さらにややこしいのは、発達の問題のない子どもでも、似た感覚を持ち合わせている子がいる事です。そのため、すぐには「問題をかかえているのでは？」に結びつきません。こんなことで泣いちゃうの？と、単なる「わがまま」や「だらしなさ」に見えてしまうかもしれません。

タートルネックが
着られない



くたくたの
古いTシャツばかり
着たがる



ニット帽を
かぶってられない

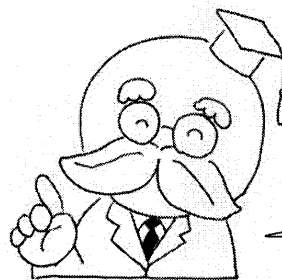


静電気を異常なほど
怖がる



果たして、「ちょうどよさ」とはなんなんでしょう？

はっきりとした基準はなく、なんとなく多数決の数が多いあたり。常に多数派で居続けるのはなかなか大変です。視覚・聴覚・嗅覚・味覚・触覚に決まった境界線はありません。その子にとっての「ちょうどよさ」を理解した上で、一般的な「ちょうどよさ」に少しでも近づく工夫ができれば、本人も周りも快適に近付いていけそうです。



親子で感覚が違うのはあたりまえじゃが、子どもの極端さにびっくりしてしまうんじゃない。その違いを認めて受け入れ合うことにちょうどよさのヒントがありそうじゃのう。

☆ 編集後記 ☆ 何を言ってもごはんを早く食べられない、時間なので片付けようとする、まだ食べると泣く...でも、時間内に食べることは味わってゆっくり食べるよりも大切なんだろうか...、ちょうどよさってなんだろう？と考えることが多い毎日です。

発達障害について勉強するようになってから、世の中は発達障害の人が作ったものであふれているということを知りました。エジソンは好奇心が強かっただけでなく ADHD や学習障害でもあったようで、学校を3ヶ月で退学。でも母親がエジソンの好奇心に答える形で勉強を教えたため、誰もが知る発明家になった。スティーブジョブスはアスペルガー症候群だったといわれていますが(それゆえに)、説明書なしで誰もが使える iPhone や iPad を発明できた！ スピルバーグは読み書き困難だったけれど、世界中の人にすばらしい映画を送り出している。などなど、今となっては彼らが作ったものがない世の中なんて、考えられません。そして、子どものできないところばかりを指摘することは、本来持っている得意分野で発揮できるはずの力を奪う可能性があることも知りました。

みんなと同じことができるようになってほしい反面、大人になったら社会の役に立てる人間になって欲しい!! でも両方は無理なのかもしれない...、大人になったらきっと世の中に恩返しができるから、今はもうちょっとまわりの我慢が必要なのかもしれない。と、悩みのつきない毎日です。